

佐々木みつこのプロフィール



■昭和37年 札幌市白石区生まれ。東白石小学校入学。上白石小学校、幌東中学校、札幌南高等学校を経て北海道大学法学部卒業。
 ■昭和60年 福武書店(現ベネッセコーポレーション)入社。「進研ゼミ」北海道責任者、ベネッセケア札幌支社長、ベネッセ介護センター札幌所長、有料老人ホーム「くらら山鼻」施設長、ベルリッツ東京本部法人営業担当を経て平成16年に退職後、(株)札幌ワインアカデミーを設立、代表取締役就任。

平成19年 札幌市議会議員に初当選。平成23年に2期目当選。札幌市議会建設常任委員会委員長など歴任。現在、同建設常任委員会委員、同大都市行財政制度調査特別委員会委員、同自民党・市民会議副幹事長、自民党札幌市支部連合会財務委員長などとして活躍中。



大好きな弟と七五三参り



学生時代はテニスに打ち込む

札幌市議会議員 白石区

佐々木みつこ 市政だより

■発行所/札幌市議会議員 佐々木みつこ 政務調査室
 〒003-0011札幌市白石区中央1条6丁目4-20
 TEL.011-868-3253 FAX.011-868-3258
 ■発行日/平成27年3月3日(火)
 ■フェイスブック/佐々木美津子

白石と札幌の元気を引き出し、確かな未来へチャレンジ



いきいき「白石」

活力ある「さっぽろ」

いつも「チャレンジ」

札幌市議会議員 / 白石区

佐々木みつこ

札幌の未来に投資して可能性を大胆に引き出します。

平成19年の初当選以来、「いきいき『白石』」、「活力ある『さっぽろ』」を目指す初心を貫き、「いつも『チャレンジ』」の精神を貫いて、この2期8年間を精いっぱい活動することができました。皆さまの温かいご協力・ご指導に心から厚くお礼と感謝を申し上げます。

これまでいつも地域としっかり向き合いながら、皆さまの声に真摯に耳を傾け、そのご意見やご要望を市政に反映するため、発言力や行動力を高めてあらゆることに挑戦してまいりました。

しかし、財政再建一辺倒の上田市政の下では、未来に投資して札幌の可能性を大胆に引き出す前向きなまちづくりは、なかなか進みませんでした。札幌市が昨年、2026(平成38)年札幌冬季五輪・パラリンピックの開催都市に立候補することを正式に決定したのも、私たちの市議会会派である自民党・市民会議の懸命の働きかけが実ったものでした。今年1月に5年の開業前倒しが決定した北海道新幹線札幌延伸も、さらなる早期開業について、国に働きかけ続ける必要があります。

特に急速に少子高齢化・人口減少が進む北海道の中心都市として札幌市が果たすべき役割は、今後ますます重要になります。安倍晋三内閣が重点施策として推進している地方創生・国土強靱化・女性が輝く社会の実現にしても、札幌市が主役となって進める気概が求められています。そうした課題について、私は地域経済の活性化はもちろん、医療・介護・福祉の充実、環境・エネルギー政策の推進、安心・安全対策の加速、除排雪の徹底など山積する区政・市政の課題に真正面から向き合い、引き続き全力で取り組んでまいります。

札幌市議会議員 佐々木みつこ



決算委員会で経済対策について質問



大分で放置自転車の実態を調査



高齢者施設の皆さんにご意見を伺う



九州視察で水道局を訪問



札幌商工会議所との懇談会



宮城県山元町で復興計画を聞き取り



元気いっぱい街頭活動

市政の課題解決へ果敢にチャレンジ

佐々木市議の主な取り組み

佐々木みつこ市議は、2期目に入ってから市議会の本会議、委員会において積極的に発言してきました。上田市政の課題・問題点に関する追及にとどまらず、具体的な提言・提案も積極的に行い、いつも注目を集めてきました。以下、佐々木市議が取り上げた市政課題についての主なテーマと、平成25年第4回定例会市議会本会議で行った会派代表質問項目を紹介いたします。

「前進した課題」

- 1 学校のトイレ水酸化推進**
市役所の担当部局は、「和式のニーズが高い」と固持しましたが、粘り強く説得を続けた結果、水酸化が進み明るいトイレ化が実現しました。
- 2 学校普通教室におけるLED導入**
省エネと照度アップのLED（発光ダイオード）導入は、市の事例や研究データを提供しながら市役所側の慎重な後ろ向き姿勢を追及、年度内導入に導きました。
- 3 障害者認定基準に達しない子どもに対する補聴器購入費補助**
それまで補助が受けられなかった軽度・中度の難聴児の補聴器購入が対象で、北海道に先駆けた実施です。難聴児の親の会と協力しながら実現しました。
- 4 菊水地区における土地画整理事業の推進**
中央線に続いて5号線、6号線において土地画整理事業を継続し、拡大実施しています。
- 5 東米里少年野球場の開設**
「埋め立て予定地の野球場（平成26年度閉鎖）に代わる東米里小学校グラウンド跡地の野球場は、一昨年から粘り強い交渉を進めた結果、今年4月から使用開始になります。
- 6 白石区役所内に保護司の窓口設置**
保護司会の窓口設置は手稲区からスタートして各区に広がっています。白石区でも早急に設置するよう、地域の保護司会とともに積極的に働きかけています。
- 7 白石歴史博物館構想の実現**
地元の期成会と協力して推進しています。移転新築が計画されている新区役所内に併設される案が浮上っています。これからの多くの課題を克服する必要があります。
- 8 排雪体制の強化**
民間の排雪場所を市の業者近くに設定するなど、民間の排雪をしやすいように改善しました。

代表質問項目 平成25年第4回定例会

- 国の経済対策との連動による予算編成、財源確保対策
- 新たな産業ブランドのための企業誘致
- 北海道新幹線の延伸に伴う負担割合、周辺住民の意識、チャーター便運航への考え方、他社路線と今後の取り組み、空港環境
- 冬季アジア大会と冬季五輪開催の認識
- 今冬の節電対策
- 高齢者の就労支援
- 教育振興基本計画と施策展開
- 国際芸術祭の開催目的など
- 雪まつりの今後の方策
- まちづくりセンターの地域自主運営化

9 地元企業受注機会の増加

景気回復と企業育成のため、市で発注する業務や工事を、地元企業が受注できるように分割入札や、総合評価加点に地元貢献や、若者、女性、障害者や更正保護雇用などが加わりました。

10 北24条大橋の建設促進

すでに工事が進んでいます。平成31年3月を目指した早期竣工に向けて、しっかりと監視と働きかけを進め、より良い交通施設となるよう努めます。

11 性暴力被害者の支援強化

同僚女性議員とともに、性暴力被害者支援センター北海道「せくら」におけるワンストップサービスの推進強化に努めました。

12 乳幼児健診のアフターケアの充実

同僚女性議員とともに、5歳児まで乳幼児に対する切れ目のないアフターケアの充実と強化に取り組みました。

13 札幌冬季五輪・パラリンピックの招致

会派の皆さんと協力し、あらゆる機会を活用して札幌冬季五輪・パラリンピックの招致に向けた活動を展開しました。その結果、招致決定に持ち込むことができました。



代表質問で堂々と市の姿勢を追及

札幌冬季五輪・パラリンピックの招致決定

自民党・市民会議の働きかけが奏功

次代を担う子どもたちに夢と誇りを与える札幌冬季五輪・パラリンピックの招致が決定しました。佐々木みつこ市議が所属する自民党・市民会議が、どっぴかという消極的であった上田文雄市長に粘り強く働きかけた結果、大きく前進したものです。

昭和47年2月3〜13日に開催された札幌冬季オリンピックは6競技35種目に35カ国16555人の選手、役員が参加し、日本ジャンプ陣のメダル独占などで沸きました。当時を思い起こして、「今度もぜひ実現してほしい」という声が多く寄せられ、同会派としても「2回目に向け必ず実現したい」と本格的な招致運動を強力に展開する方針です。

自民党・市民会議は他会派に先駆け、上田市長へ招致を提言しました。その後、経済界の後押しがあり、他会派への働きかけなどの努力が実って、26年第3回定例会で招致決議が可決されました。これを受けた上田市長は、11月27日に開催都市に立候補することを表明しました。

札幌市のまともによると、開催経費約4045億円（うち札幌市負担分715億円）に対し、経済波及効果は約7700億円、雇用誘発人数は約6万1000人と試算されています。実現すれば、北海道の活性化と札幌を世界にアピールする絶好の機会になります。佐々木市議も、次の目標は「ズバリ実現」と張り切っています。



カーリングなどのウィンタースポーツ振興にも積極的

自民党札幌連の重点政策

「冬のイライラ解消」「快適交通」に

自民党は全力で取り組みます！

●生活道路の除排雪を市負担で実施

住宅街における生活道路（幅10メートル未満）の除雪は、市民に費用負担を求める除雪パートナーシップ制度により実施されていますが、市が責任を持って生活道路の除排雪を実施し、市民負担をゼロにします。

●IC乗車券「サピカ」をJRでも利用可能に

札幌市交通局のICカード乗車券サピカは、札幌圏の地下鉄・バス・市電で使えますが、JRには利用できません。「敬老パス」「マタニティパス」「育児パス」の利用者からも「JRで使えるようにしてほしい」という要望が多く寄せられています。JRでも利用可能にするため全力で取り組みます。

平成27年度 札幌市一般会計予算8722億円

保育所の定員 616人増

- 一般会計の平成27年度予算額は、經常的な事業を中心とした骨格予算であり、予算規模は8722億円で対前年比1.4%減
- 特別会計・企業会計を加えた全会計では、対前年比0.5%増の1兆5443億円を計上

主な事業

子育て・教育	防災・福祉	経済・観光	環境・動物園	まちづくり・スポーツ
認定子ども園の整備など待機児童対策関連 19億9200万円	民間建築物の耐震化促進 3億8000万円	映画の撮影などを後押しするコンテンツ特区関連 1億3900万円	電気料金値上げに伴う中小企業向け省エネ事業 2600万円	町内会への加入促進 3000万円
開成中等教育学校の「国際バカロレア」関連 2100万円	生活困窮者自立支援事業 2億5600万円	丘珠空港の利用促進関連 6400万円	小中学校への太陽光パネル設置費 3億1800万円	冬季アジア競技大会の開催準備費 6億6000万円
高等支援学校整備 2億5000万円	広域型特別養護老人ホーム新築費 5億5500万円	市民交流複合施設の整備関連 80億5300万円	ホッキョクグマ・アザラシ館の建設など動物園施設整備関連 11億9500万円	白石区複合庁舎等整備関連 12億3150万円

北海道新幹線札幌延伸 開業5年前倒しが決定

北海道新幹線（新青森〜新函館北斗）は、平成28年3月に開業します。すでに車両「H5系」が昨年10月に函館港に初陸揚げされ、11月には木古内駅でレール締結式が行われました。

一方で、札幌延伸工事も順調に進んでいます。市議会自民党は、政府や関係機関などに工期の前倒しを粘り強く要請してまいりました。こうしたオール北海道的取り組みが実を結び、27年1月の政府・与党整備新幹線検討委員会において開業時期を5年前倒しして平成43（2030）年に開業することが決定しました。さらなる早期開業を目指し、会派一丸となって取り組む決意です。

